
なんで私が騎士になるのよっ！

石端

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

なんで私が騎士になるのよっ！

【Nコード】

N8773U

【作者名】

石端

【あらすじ】

主人公は実はお姫様で素性を隠すためにとある酒屋に・・・
そんなことはありえない！

酒屋の娘はただの酒屋の娘。

でもその腕っ節（よっぱらい相手に鍛えた）を見込まれて
さすらいの騎士様のお供のんだくれてたすることに。

嫌って言おうとしたらって、ええええ！

家（兼酒屋）がゴブリンに壊されてるうう！？

騎士様がいうには俺についてくるしか道はない、らしい。

どうなるんですか私、まだ嫁入りもしてないのにつ！

はじめに

はじめに

この物語はハオー・ポーターとロー・オブ・キグの世界観を足して2で割ったらなんか1余ったような世界観です。でも別に主人公には稲妻の傷は無く指輪も届けません。この世界には大きくわけてつの8種族が存在します。どの種族も言葉が通じます。

1・人間

私たちと同じです。

頭が良かったり強かったり弱いけど、時に裏切ったり傷つけあったりしながらも愛し愛されるなんかイロイロ大変そうな種族。

2・エルフ

世界でもっとも美しいとされる種族。

性別に関係なく透き通った白い肌と金色の髪が特徴。

日の光をあまり好まないのが普段は森で生活しています。非常に賢く理性的な反面、友を大事にするという優しい一面もあります。

3・魔法使い

人間がめっちゃくちや修行して悟りを開いたらなれたりもともと魔法使いとしての素質をもっていたりと様々。あまり感情論で動くことがない者が殆ど。

4・ゴブリン

体力はあまり高くないけれどどの種族よりも狡賢く自分の利益を第一に優先する種族です。同族でも殺し合いをいとわない反面、利益のためなら誰の下にもつくことがある信頼という言葉のない種族。

5・ドワーフ

大人の平均身長が130cm前後と小柄な種族。宝石細工などの加工が上手で商売上手。非常に義理堅く一度受けた恩は何代もかけて返します。

6・オーク

身長190cm以上、筋肉質。エルフが何世紀も前に改造された結果目も背けなくなるような姿になったのがこれ。

人肉を始めとする他種族の肉を好む野蛮な種族。体力なら勝る種族はありませんが若干知能が低いです。

7・マーメイド

海に住み美声で人々の心を惑わす海の魔女と恐れられる種族。男性の絶対数が極端に少ないです。知能も体力もあまり高くはありませんが主人に対する絶対の忠誠心をもっています。

8・大魔王

この世界の絶対悪。何世紀も前から世界を滅ぼそうともくろむ悪い人。知能も体力も勝るものはいないが仲間はいない。

9・その他

ドラゴンだったり小人だったり、
知能があまり発達していない種族も大勢います。

酒場の娘はどう頑張っても酒場の娘

昔々のお伽噺。

決して裕福ではない家で、血のつながらない母親と姉に苛められながらも

慎ましやかに暮らしていると、ある日お城からの使者が来て、

実は捨てられた隣国のお姫様だったことが明かされる。

そして王子様と幸せに暮らしましたとさ。

・・・みたいな話が、お伽噺では多いと思う。

でも、それはあくまで『お伽噺』であって、

間違っても貧しい家にお姫様を捨ててく国なんていない。

あったとしたらもの凄いバカ。

と、いうわけで、貧しいっつーかこんな場末の汚ったない酒場で働いてるあたしは、

いたって普通の酒場の娘。レミリアっていう名前。

母さんとはちゃんと血が繋がってるしそもそも姉なんていない。

まああたしがまだ5才くらいのときだったか、似たような感じのお伽噺を読んで

一回だけ自分もお姫様なんじゃないかと思ったことがある。

で、それをちょうど酒場で働いてた父さんと母さんとまあ側にいた客に話したら

当然っちゃ当然だけど、爆笑されて終わった。

いやいやいや、幼心には結構傷つくモノですよ？

今のあたしがその場にいたら誰よりも全力で笑うと思うけど。

あーあ、あたしもすれちゃったなー・・・。

でも、それでもあたしは今の自分に満足してる。

確かに豪華な食事とか服とかはないけどさ・・・。

「レミリアーっ。下来て手伝っておくれ！」

あ、母さんが呼んでるから下行かなきゃ。

少し汚れたエプロンを引っつかんで階段を下りる。

ちなみにウチは1階が酒屋で2階が生活スペースです・・・ってどうでもいいか。

アレ、誰に話してんのあたし。

店のある1階に着くと、酔いの回った客達で賑わっていた。

父さんはいまどきめずらしく、人間以外にも慣用な人。

だから酒場には、人間はもちろんドワーフとかゴブリンとか

あとたまにエルフなんかも客としてやってくる。

「よーおうレミリアあ。また少しデカくなったかあ!？」

お酒が回って少し舌に力が入らないように話しかけてくるのは、

常連の、ウチの隣にすんでるおじさん。

いや、あたし身長は去年で止まったんですけど。

なんていったら、ちげーよ胸だよ胸、なんて言ってきたから一発お見舞いした。

セクハラは許されねーでございますよお客様。

おっさんを殴っ・・・注意してふと壁のほうを見ると

めずらしくかつこいいお兄さんが客として来てた。

うーん、ああいうかつこいい人になら何言われてもいいのになあ。

人間って変なのー。

ていうか今のあたしが殴っちゃったせいで

店がなんか全体的に殴り合いみたいになってるんですけどー。

あーああ。汚いオッサン同士で楽しそうにケンカしてるや。

お互い死なない程度にほどほどにね、と声だけかけるとおうよ！って声が返ってきた。

まっ、ああいう良くも悪くも賑やかな酒場が父さんの理想。

そして、あたしの理想。

豪華な食事と服に囲まれるよりも、

あたしはこの薄汚れた酒場で客もてなすのが幸せ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8773u/>

なんで私が騎士になるのよっ！

2011年8月6日13時27分発行